2013 年 12 月 25 日

ラチーノ学院卒業式に出席して

学移連 OB 会西日本支部支部長
引地 正之

学移連 OB 会西日本支部・京都外国語大学校友会有志が昨年 6 月から日本語補助ボランティア活動を行っている日系ブラジル人学校「日本ラチーノ学院」(滋賀県近江八幡市)の平成 25 年度卒業式は、12 月 22 日（日）滋賀県湖南市立公民館にて午後 3 時より挙行されました。





当日は、時折日が差したものの雨・霙のあいにくの天気でしたが、卒業生の父兄や来賓等総勢約 300 人が参加して定刻より 30 分遅れで開催されました。

卒業式の正装に学位帽をかぶった幼稚園児 6 人、中学卒業生 13 人、高校卒業生 11 人が一人ひとり名前を呼ばれて、父兄のエスコートで会場に入場し、タチアナ亀谷副校長の司会により式は始まりました。

カイオ上村校長の卒業生に贈る言葉に続いて、中川理事長の祝辞、来賓の方々の祝辞の後、カイオ上村校長・担任の先生から幼稚園児から中学・高校の卒業生一人ひとりに卒業証書を手渡して、先生と卒業生が抱擁をする姿は日本の卒業式には見られないブラジルならではの微笑ましい光景でした。卒業証書授与の後、幼稚園児の合唱・遊戯、中学・高校生の感謝の言葉、教職員の紹介などを行い式は滞りなく終了しました。





同学院の卒業式は、日本の卒業式の光景とは異なり、ブラジルスタイルで使用言語はポルトガル語で、卒業生の家族が参列して家族全員で子弟の卒業を祝い、家族と卒業生や教職員、来賓等の参加者が一体となり厳粛な中にも温かい雰囲気アットホームな感じを受ける卒業式でした。



卒業式が終了した後、卒業生・家族や、教職員・来賓の方々がブラジル音楽の流れる会場に設けられた食卓で、ブラジル料理に舌鼓みを打ち、記念写真を撮影するなど思い思いに楽しみ祝宴は夜遅くまで続きました。

同学院の卒業生―幼稚園児は、1 月の新学期から同学院小学校へ入学、中学卒業生は高校へ進学、高校卒業生 11 人は、5 名が京都外国語専門学校日本語学科へ進学希望、2～3 名は、ブラジルの大学に進学するために家族と帰国、後の卒業生は両親と共に滋賀県下の会社・工場に就職するそうです。



昨年 6 月から始めた学移連 OB 会西日本支部・京都外国語大学校友会有志・京都外国語大学学生の同学院生徒への日本語補助ボランティア活動の影響もあって、同学院高校卒業生は、京都外国語短期大学、京都外国語専門学校へ入学するなど、少しずつ効果が出始めており、日本に定住する日系ブラジル人生徒の日本語能力向上に役立てる様、又日本社会への同化を促すことが出来るように、今後も支援を続けて行く所存です。　　完

（海外事情研究会ＯＢ会）